



NPO 法人 つくば環境フォーラム

令和 5 年度活動報告

特定非営利活動法人（NPO 法人）「つくば環境フォーラム」は、つくば周辺地域の環境をよりよい形で未来世代に引き継ぐことを目的に、2001 年に発足しました。

つくば環境フォーラムは、環境情報活動センターとしての機能を軸として、広く一般市民に対して、環境にかかわる情報の収集・発信・活動の連携の促進、つくば周辺地域の自然環境の調査・研究・保全活動、環境教育の推進、環境に配慮したまちづくりの研究・提案に関する事業を行い、多くの人の環境に関する意識の啓発・活動への参加を促し、地域社会の環境保全活動の増進に寄与することを目的としています。（つくば環境フォーラム定款より）。

つくば市で進めている「生物多様性つくば戦略」にて、市内 10 か所の重点エリアに、つくば環境フォーラムの活動フィールド「すそみの田んぼと森」「葛城の森」の 2 ヶ所が、選定されています。

令和 5 年度は以下の活動を行いました。

1. 環境の調査・研究・保全事業

1-1. 筑波山麓谷津田再生事業(すそみの田んぼと森での活動)

筑波山のふもと神郡にある「すそみの田んぼ」と名付けた自然豊かな谷津田を存続させるために始めた米づくりは、今年で 18 年目になりました。0.8ha の谷津田での環境保全型の米づくりと周辺の里山林 2ha の手入れで豊かな自然を育てています。環境省の重要里地里山 500 に選定されており、ホタルやホトケドジョウなど絶滅危惧種がみられ、サシバやサンコウチョウなどの夏鳥が子育てしています。

この活動は稲作生産条件の良くない谷津田を地元の農家さんからお借りして里山自然の豊かな環境を保全するために谷津田再生事業として開始しました。

平成 29 年頃、坂東太郎株式会社の母の里山事業構想に伴い、活動している田んぼの 9 割と森の約半分を坂東太郎(株)母の里山が所有することとなりました。

坂東太郎(株)、地元農家さんから土地を無償でお借りして里山環境保全活動、環境教育活動に活用させていただいております。

本事業は地元農家さん、農業生産法人、坂東太郎(株)、メタウォーター株式会社、筑波山麓グリーンツーリズム推進協議会を通しての野村不動産などの企業、そして当会ボランティアからのご支援、連携で推進しております。

「すそみ」の主な活動年表

地球環境基金：筑波山麓・新たな里山の担い手を育てる谷津田再生事業（H18～20）

→田んぼボランティア開始 支援者募集開始、体験付きオーナー募集開始

三井物産環境基金：筑波山麓地域活性化に向けて～谷津田再生から始まる都市と農村を結ぶ結びづくり

→すそみろく発行

全労済地域貢献事業（環境分野）筑波山麓・都市と農村を結ぶ「すそみ」の森づくり H19,20）

→植樹活動、森の手入れ活動開始 →薪クラブの活動につながる

茨城県元気な森林づくり活動支援事業費補助金（H20）

→竹林の整備、山口への道づくり

子どもゆめ基金：里山子どもワンダーランド作戦（H20）

損保ジャパン環境保全プロジェクト（H21）

→田んぼの生きもの調査（ホタル、水生昆虫、ホトケドジョウ）

緑の募金公募事業（ローソン緑の基金）（H21～H27）

→植樹、植樹地の手入れ

耕作放棄地緊急総合対策事業費（NPO 参入支援事業費関係）（H22）

→御手洗農場裏山の整備

筑波山麓 GT 推進協議会を通しての野村不動産(株)の田植え稲刈り体験活動開始（H24～R1、R5～）

（有）武平ファームの協力（H24～）、地元農家よりトラクターの提供

→米づくりに関して外注から内部化への動きが始まる

積水化学工業(株) 主に森づくりに参加（H25 頃～）

坂東太郎(株)母の里山事業で、田んぼや森の多くが「母の里山」名義となる（H29 頃より）

メタウォーター(株)の参加（H30～）

集中豪雨による土砂崩れやイノシシ侵入による畔の消失の修復を、内部人材で行った。

→管理について内部化が進む

富士電機(株)筑波工場新入社員研修（R4、R5）



今年度の主な活動

- ・田んぼボランティア 18名登録、年間約50日の活動を行いました。
田んぼボランティアの手で無農薬かつ周囲の森の落ち葉を肥料にして米づくりを行いました。雑草を抑え、イノシシにも侵入されずに無事収穫を迎えることができました。秋～冬に周辺の森や藪の手入れ活動も行いました。
- ・沢水だけの米作り支援金36名(51口)および積水化学工業(10口)。
会員16組と積水化学工業(株)の10組が田植え、ホタル観察、稲刈、収穫祭の体験に参加。
- ・自主イベント：田植え始め5/4、稲刈りはじめ9/16、収穫祭1/13
- ・筑波大学自然保護寄附講座 すそみの森をフィールドに実習活動10/16、11/13、12/11。
- ・第28回「野生生物と社会」学会大会エクスカージョン40名を案内12/3。



- ・筑波山麓GT推進協議会を通しての野村不動産(株)の参加とご支援。
- ・田植えイベント1回(5/20)、稲刈りイベント2回(9/9, 9/23)を実施
- ・富士電機(株)新人研修 4/11 ハンノキ林の間伐。
- ・積水化学工業(株) 6/4 植樹地の手入れ及び田植え草とり。
- ・経営士会のみなさま 6/25 田植え、11/5 稲刈り。
- ・メタウォーター(株)10/21 稲刈り体験に参加。

- ・田井の秋祭り11/3、お餅つき、野菜の販売などの企画参加。
- ・田んぼボランティアお疲れ様会11/24(坂東太郎(株)のご支援)。
- ・田んぼボランティアメンバーで暗渠排水設置工事を実施。
- ・野焼き2/12。
- ・千葉県国府台女子学院ピオトープ愛好会中3～高3の生徒たち 田んぼの生きもの観察に来訪7/31
- ・自然農園「然なり」とのコラボで味噌づくり、交流活動を実施。
- ・筑波山神社新嘗祭11/23に奉納、祈年祭2/11に参列。
- ・参加のべ人数は900名(参加者のべ537名、田ボラのべ363名)。



今年度の調査研究

- ・生物多様性つくば戦略に伴う調査を実施。筑波大学上條先生の調査でコテングコウモリを確認、茨城県初認。
(沢治いに刈払い間伐を行ったことで棲みかが提供されたのではないかとのこと)。
- ・筑波大学大学院田中歩氏のハナウドへの訪花昆虫調査。
- ・かなめ測量よりドローンによる計測をボランティアで行っていただき、計測データを提供されました。

1-2. 葛城の森での活動

TX による開発が目前に迫った平成 15 年、良好な里山の指標となる国蝶オオムラサキがつくば市の平地林に住み続けられるには何をしたらよいか模索していました。下平塚地区にて良好な雑木林の地権者と出会い、森を残したいという意向で保有する森林の多くで保健保安林の指定を取っていること、また、その森にオオムラサキが生息していることが分かりました。この出会いからオオムラサキが棲み続けられるよう森を手入れする活動「森づくりボランティア」が始まりました。

TX に伴う開発で、多くの森がなくなりました。オオムラサキが棲んでいた森の多くが消失もしくは小さく分断されていきました。そういった状況の中で下平塚地内の保健保安林 10ha 及びその周囲のオオタカの営巣実績がある 14ha の緑地がまとまって残されることとなりました。この 24ha の緑地を私たちは「葛城の森」と呼んでいます。

「葛城の森」の主な活動年表

地球環境基金：オオムラサキの棲む里山づくり事業（H15～17）

→地権者が森として残す意思のある森林を、オオムラサキが暮らすのに適した森として手入れする目的で、森づくりボランティア活動を開始

H15 島名小学校オオムラサキ飼育舎設置、TX 開発に伴い消失する森（島名小学区内）に暮らすオオムラサキの幼虫を保護飼育しながら島名小学校の児童に向けた教育活動を実施。

消失する森と葛城の森の距離約 3km は自動車研究所内の森を介して行き来可能と判断できるため、飼育舎で育ったオオムラサキを葛城の森に放蝶した。（H24 まで）

子どもゆめ基金（H20～H23）：里山子どもワンダーランド作戦

→子どもたちの自然体験活動として里山子どもワンダーランド作戦を形を変えながら実施（R3 まで）。

ロケーションビレッジの活動が始まる（H24 頃より）

三井物産環境基金助成：人と自然と地域を結ぶ「オオムラサキの森」づくり（H25～H27）

→聞き取り調査、他地域の事例など、情報収集を行った。

葛城地区大規模緑地ビジョン及び行動計画作成における各種提案業務（H26）

→葛城の森の県有地と民有地を一体として捉えた管理につながる

H27～「葛城大規模緑地利活用業務」（財）つくば都市交通センターとの共同体で受託（R3 まで共同体、R4 よりつくば環境フォーラム単独）

→葛城里山クラブの運営（葛城フォレスト活動、交流イベント、植樹イベント、里山散歩、植生ボランティア等）

H27 松林調査、H30 湿地調査

① 森づくりボランティア（下平塚の保健保安林等、民有地での活動）



今年度の主な活動

- ・森づくりボランティアを 9 回実施（活動開始より通算 198 回の活動）。
今年度は森の手入れ活動に加えて、森の自然資源の利活用としてニホンミツバチの巣箱設置、会員よりご提供いただいた畑でサツマイモ、蕎麦の栽培を試みました。
4/2 ミツバチ巣箱設置 7 名 5/28 シイタケなめこ 5 名 サツマイモ 植え付け 8 名 7/13 刈払い 2 名 8/12 はちみつ採取蕎麦種まき 6 名 10/14 サツマイモの収穫 6 名 11/25 蕎麦の収穫 10 名。12/2 そば脱穀 5 名 2/4 住宅地前間伐 7 名 & 桜井さん訪問 4 名 3/2 住宅地前間伐 8 名
- ・つくば市学園の森 3 丁目の里山隣人会メンバーに参加を呼び掛けたの活動を実施、8 世帯のうち 5 世帯が参加。
- ・代替わりした地権者に森ボラのメンバーで挨拶、地権者の意向を共有。
- ・ロケーションビレッジの活動 8/5 実施。
- ・参加のべ人数 85 名。

②葛城大規模緑地利活用事業（茨城県委託事業）

市街地に隣接して残された葛城大規模緑地（県有地）14ha は、自然環境を保全し活用することをめざして官民協働で整備中の里山です。平成 27 年に設立された「葛城里山クラブ」の会員での活動を通して里山公園づくりを試みています。葛城里山クラブ会員は令和 6 年 3 月時点で登録会員 725 名 4 団体です。

会員が参加する企画「里山散歩」12 回実施、のべ 195 名が参加。

植樹地の手入れ活動 4 回計画、3 回実施、25 名が参加。

緑地の植物調査や保全活動を行う「植生ボランティア」に 15 名が登録、12 回の活動（9 回の調査と 3 回の植物観察会）を実施。



湿地での活動



植物観察会



会員提案の活動（ドローンによる計測デモ）

他団体による利活用

春日義務教育学校 3 年生 100 名 6/8
筑波大学大学院自然保護寄附講座
10/16、11/13
第 28 回「野生生物と社会」学会大会
エクスカージョン 40 名、12/3



葛城フォレスター活動

里山の環境維持管理活動を刈払い機やチェーンソーの講習を受けた「葛城フォレスター」が有償ボランティアで担当しました。

- ・活動日数 45 日、活動のべ人数 394 名。・安全講習 2 回実施。
- ・他地域での活動を視察する研修 1 回実施（流山市市野谷の森にて NPO さとやまとの交流を兼ねて実施）。



スギ林の間伐 安全な施業を確認



トラクターでの除草は夏場の負担減につながる



G1 エリアの管理は良好な茅場が目標



F 除草した草の回収（近隣住宅地への配慮）



外部研修（流山市市野谷の森）



間伐材を緑地内で利活用

今年度の成果

●生物多様性の保全

- 植物調査で 399 種を確認（1 つの緑地で 250 種を超えると多様性が高いと言われています）。
- うち絶滅危惧種を 16 種確認。
- 植物調査を通して確認した希少種の情報をフォレスター活動と共有、希少種の保全と生息環境の維持を実現。
- 動物カメラが複数のキツネを撮影。キツネの繁殖の可能性あり。
- 5 つ設置したフクロウの巣箱の 1 つで繁殖とヒナの巣立ちを確認。巣箱での繁殖成功は累計 3 回目。

●幅広い層の参加

- 里山散歩で植物観察会の実施を通して参加者層が広がりました。
- 里山散歩で会員から提案いただいた「ドローンによる計測デモ」を実施。
- 植生ボランティアに研究者の参加。
- 植樹の手入れ会に植樹に参加して以来の参加者がありました。
- 地域の小学校の訪問が実現した。
- 里山散歩での手入れ活動への参加、体験フォレスターの受け入れなど、会員がフォレスターと交流する機会を設けることによるフォレスター活動の認知と理解の促進。



●人材育成とよりよい活動に向けて

- 葛城フォレスター活動にて現場でのエリアの目的に応じた自発的な作業が増えていることで、効率的かつきめ細やかな環境維持管理活動を実施。
- 各エリアの状況をフォレスターメンバーと各回把握して、柔軟な活動を設定して、生物多様性に配慮した刈り残しやクズや外来種の選択除草など、細やかな維持管理を実施。
- 流山市市野谷の森で活動する NPO さとやまとの交流を通じた研修を実施、葛城大規模緑地の管理や運営について有意義な知見を得ることが出来ました。
- 無事故で一年間活動できました。ヒヤリハットする局面の振り返りでフォレスターから改善の意見が出るなど、安全に関する意識が年々高くなっています。

- 参加のべ人数は 873 名。
- 他にけんがくさくらまつり 3/30 にて、丸太切り体験を通して葛城里山クラブの紹介を実施（約 70 組 250 名が丸太切りを体験）。



1-3. 調査活動

つくば環境フォーラムで事務局を担当した委託調査の調査活動について紹介します。

「茨城県内ブナ調査」(ミュージアムパーク茨城県自然博物館からの委託事業)

筑波山のブナ林を中心に、茨城県内に分布する貴重なブナ林について、保全のための基礎資料となるデータの蓄積を図ることを目的とした以下の調査研究を行いました。

●筑波山におけるブナの開花結実調査

筑波山の山頂付近に分布するブナ調査木(ブナ大径木)200本について、毎年春秋に開花結実状況を調査し、その経年変化を記録している。ブナの結実は成り年と不成り年を繰り返すといわれる。令和4年度は記録的な豊作であったが、令和5年度は反対にほとんど結実は見られなかった。

●筑波山かたくりの里の刈払い地の植生モニタリング調査

筑波山かたくりの里の刈払い地に設置した試験区(5m×5m、9区)において、植生モニタリング調査を2回実施した。カタクリなど林床植物の多様性を保全するための基礎データを得るための調査である。令和5年度は、刈払い影響とともに、イノシシ掘り返し影響も評価するため、7月にイノシシ柵を設置して調査した。

●筑波山で採集したブナ種子によるブナの育苗

令和4年度は筑波山におけるブナの記録的な豊作年であったので、筑波山でブナ種子(健全種子900粒)を採取し、筑波大学園場でブナの苗を育成している。将来的に成長した苗を、筑波山に植え戻してブナ林の更新を図りたいと考えている。

●茨城県内のブナ、イヌブナの分布調査

茨城県内の山域において、ブナ・イヌブナの分布状況を詳細に調査している。令和5年度までに、県内でブナの分布地39か所、イヌブナの分布地47か所を記録した。初記録の地点も多くある。また、低標高の多くの地点にブナ・イヌブナともに分布しており、注目される結果となっている。

●筑波山ブナ林における動物調査

筑波山に設置した8地点の自動撮影カメラにより哺乳類を記録する調査を実施した。全体で9科11種(ネズミ、コウモリの未同定種含む)の哺乳類が記録された。イノシシ、アナグマ、ハクビシンについては地上での探餌行動、休息行動などが確認され、テンは主に通過行動が確認された。また、令和4年度は確認されていなかったノウサギ、タヌキ、ニホンリスが確認された。また、外来種のアライグマについても本調査では初認である。



「筑波山モニタリング区の毎木調査とデータ入力作業」(森林総合研究所委託事業)

筑波山の山頂付近に設置された1ha(100×100m)の調査区は環境省のモニタリングサイト1000に登録されており、長年にわたるブナ林の動態を記録し、そのデータは公開されています。5年に一度実施されるこの調査では、調査区に生育するすべての樹木の樹種、大きさ、位置を記録し、それぞれの個体の成長や枯れ、個体の入れ替えなどが記録されています。

2. 環境教育推進事業

2-1. 筑波山麓自然学校（つくば市委託事業）

平成 14 年度から筑波ふれあいの里の主催事業の筑波山麓自然学校を企画運営しています。この事業は、筑波ふれあいの里を周知するとともに筑波山麓の自然を学び、里山保全への理解を深めることをめざしています。年間7回のイベントを実施、参加のべ人数は213名（うち参加者167名（申込総数341名））でした。

実施日	テーマ	人数
7月15日	沢の生きもの観察会	27名
8月9日	虫むし探検隊調査編	28名
8月23日	筑波山の自然と遊ぼう	22名
9月4日	虫むし探検隊 スケッチ編	27名
10月10日	真綿から繭玉をつくってみよう	47名
12月3日	しめ縄をつくってみよう	35名
12月17日	クリスマスクラフト	27名



2-2. つくば里山楽しみ隊 in 高崎自然の森（つくば市委託事業）

つくば市農業課の「高崎自然の森自然体験教室事業」を平成21年度より高崎自然の森で「つくば里山楽しみ隊」を実施しています。里山の平地林の価値や、里山の自然の豊かさは人が手入れし利用することで保たれたことを伝えています。3回実施、参加のべ人数113名（うち参加者77名）でした。

実施日	テーマ	人数
7月26日	第1回：生き物調査とスケッチ（小中学生対象）	19名
8月2日	第2回：調査マップ作り（小中学生対象）	25名
11月18日	第3回：高崎自然の森で自然体験（森の手入れ体験と自然散策）（親子対象）	69名



2-3. 筑波山自然環境教育事業（つくば市委託事業）

つくば市環境政策課主催の市内の自然環境を学ぶ講座の企画・運営の委託を受け、今年度は葛城大規模緑地にて夏に子どもたちの生きもの調査活動、冬に自然観察を実施、都市近郊の緑地の保全についての啓蒙を行いました。参加のべ人数43名（うち参加者24名）でした。

実施日	テーマ	実施場所	人数
7月22日（土）	夏休み企画 葛城の森で虫探し！（小中学生）	葛城大規模緑地	27名
1月20日（土）	冬の森のネイチャーウォッチング（親子・一般）	葛城大規模緑地	16名



今年度の成果

- 筑波山麓自然学校について、昨年度に引き続き、筑波山麓グリーンツーリズム推進協議会と連携した活動を実施、里山の文化を参加者に伝えることが出来ました。
- 筑波山麓自然学校ではどの行事も定員割れすることなく募集を行うことが出来ました。
- 高崎自然の森里山たのしみ隊にて、今年度も筑波フォレストクラブと連携して植樹地の手入れ（間伐）を啓蒙することが出来ました。
- つくば自然環境教育事業にて、筑波大学野生動物研究会の大学生に活動の補助をいただきました。
- それぞれのフィールドにて生物調査データ（主に昆虫）を実施した。

2-4. その他の環境教育推進事業

- 筑波大学大学院自然保護寄附講座よりインターンシップの受け入れ
令和5年度は2名を受け入れました。
- 筑波山自然観察ハンドブックの販売
令和5年度は37冊販売しました。

3. 連携促進事業

・筑波山麓グリーンツーリズム推進協議会との連携

筑波山麓で活動する個人や団体が連携して、豊かな地域資源や人材を活かした都市と農村の交流をめざし結成された筑波山麓グリーンツーリズム推進協議会（GT 協議会）に会員として参加、協働した活動を行っています。

- ① 野村不動産㈱のすそみの田んぼでの活動を連携して実施しました。
田植えイベント1回稲刈りイベント2回、すそみの田んぼ支援の御礼のお米を送付。
- ② 筑波山麓自然学校にて、2回のイベント（蒴玉から真綿づくり、しめ縄づくり）を協働で実施しました。

・筑波大学大学院自然保護寄附講座里山実習

葛城大規模緑地、すそみの森に動物カメラを1か月設置して収集したデータをもとに研究発表を行いました
10/16、11/13、12/11 指導教官：佐伯いく代 参加した大学院生10名

・その他、他団体との連携

NPO 運営に関する知見を提供する NPO コモンズ、環境 NGO・NPO の全国ネットワークである「グリーン連合」、蝶にかかわる自然環境の保全を進める「日本チョウ類保全協会」、持続可能な開発のための教育の推進を目指す「ESD-J」に会員として参加。

4. 情報収集・発信事業

・ホームページ・ブログ・フェイスブック

つくば環境フォーラムのホームページと facebook（フォロワー800名超）で活動の紹介やイベントのお知らせをしています。葛城大規模緑地利活用事業のブログ「葛城の森から」の発信も facebook でお知らせしています。

・つくば市社会福祉協議会の活動への参加

11/4 筑波大学学園祭「T-ACT×つくばボランティアフェスタ」、2/9 ボランティア情報交換会に参加しました。

5. 環境に配慮したまちづくりの研究・提言事業

・つくば市生物多様性つくば戦略への参加。4つのNPOが市の依頼で参加協力している。

10/7 つくば市の生物多様性について考えるワークショップ

・第28回「野生生物と社会」学会大会への参加

12/2 公開シンポジウム、懇親会

・高崎自然の森の環境管理に関する助言

2023 年度会員数：76（正会員 17 準会員 51 賛助会員 5 特別賛助会員 3）
--